

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2021.1227-2022.1.2

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

- 40:1 主はさらに、ヨブに答えて仰せられた。
40:2 非難する者が全能者と争おうとするのか。神を責める者は、それを言いたててみよ。
40:3 ヨブは主に答えて言った。
40:4 ああ、私はつまらない者です。あなたに何と口答えできましょう。私はただ手を口に当てるばかりです。
40:5 一度、私は語りましたが、もう口答えしません。二度と、私はくり返しません。

42章のヨブの答えからもわかりますが、彼の心にはすでに自分が正しいという主張はなかったと思われる。主はただみかけのように、ヨブに彼の弱さを知らしめるように語られます。なぜでしょうか。ヨブには主権者なる神のことばをひれ伏して聞く心ができていたからでしょう。友人たちが語ったときのように、反論しながら聞くのとは全く違います。主はヨブを告発するために語られるのではなく、彼を教え諭し、その信仰を確かにするために語っておられるようです。

ここに大切な真理があります。ひとつは、人を導こうとするとき、ヨブの友人たちのように、正しいと思えることをことさらに言い続けたり、ときには相手を非難することで聞いてもらえんと思っても無理だということ。むしろ、この例のように、神様が語っていただくことを求めなければなりません。自分の説得で相手が変わるはずだと考えるのはむしろ傲慢ではないでしょうか。次には、神の主権を認めひれ伏すなら、心に平安が来るということです。ヨブは自分の正しさを主張していたときは二重の苦しさを味わっていました。病の苦しさと、自分が非難される苦しさです。そんなヨブも、今は心定まって神のことばを聞いています。みことばがそのまま心に入っている状態でしょう。

自分の正しさを主張するよりも、主の前にひれ伏しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



40:6 主はあらしの中からヨブに答えて仰せられた。
40:7 さあ、あなたは勇士のように腰に帯を締めよ。わたしはあなたに尋ねる。わたしに示せ。
40:8 あなたはわたしのさばきを無効にするつもりか。自分を義とするために、わたしを罪に定めるのか。
40:9 あなたには神のような腕があるのか。神のような声で雷鳴をとどろき渡らせるのか。
40:10 さあ、誉れ、気高さで身を装い、尊厳と威光を身につけよ。
40:11 あなたの激しい怒りを吐き散らし、すべて高ぶる者を見て、これを低くせよ。
40:12 すべて高ぶる者を見て、これを押え、悪者どもを、その場で踏みにじれ。
40:13 彼らを共にちりの中に隠し、その顔を隠れた所につなぎとめよ。
40:14 そうすれば、わたしはあなたをたたえて言おう。あなたの右の手があなたを救える。
40:15 さあ、河馬を見よ。これはあなたと並べてわたしが造ったもの、牛のように草を食らう。
40:16 見よ。その力は腰にあり、その強さは腹の筋にある。
40:17 尾は杉の木のように垂れ、ももの筋はからみ合っている。
40:18 骨は青銅の管、肋骨は鉄の棒のようだ。
40:19 これは神が造られた第一の獣、これを造られた方が、ご自分の剣でこれに近づくと。
40:20 山々は、これのために産物をもたらし、野の獣もみな、そこで戯れる。

40:21 彼ははすの下、あるいは、葦の茂みや沼に横たわる。
40:22 はすはその陰で、これをおおい、川の柳はこれを囲む。
40:23 たとい川があふれても、それはあわてない。その口にヨルダン川が注ぎ込んでも、動じない。
40:24 だれがその目をつかんでこれを捕ええようか。だれがわなにかけて、その鼻を突き通すことができようか。

河馬は野生動物の中では比較的身近で、また観察し易いものであったのかもしれませんが。よく知られた動物もよく見ると本当に不思議な構造や形態であることに気づくものです。また能力は人と比べるなら、驚くべきものです。

私たちは自然界のものをあまりにも当たり前にしていないでしょうか。もしも神様の創造に驚かないなら、洞察力不足なのです。それは日常にも言えるのではないのでしょうか。

自然、生命、人間などから、主の創造と摂理のすばらしさに気づきましょう。そして、主をあがめ、自分は謙遜になり、そして主の力を信頼してゆきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



41:1 あなたは釣り針でレビヤタンを釣り上げることができるか。輪縄でその舌を押えつることができるか。
 41:2 あなたは葦をその鼻に通すことができるか。鉤をそのあごに突き通すことができるか。
 41:3 これがあなたに、しきりに哀願し、優しいことばで、あなたに語りかけるだろうか。
 41:4 これがあなたと契約を結び、あなたはこれを捕えていつまでも奴隷とすることができるか。
 41:5 あなたは鳥と戯れるようにこれと戯れ、あなたの娘たちのためにこれをつなぐことができるか。
 41:6 漁師仲間はこれを売りに出し、商人たちの間でこれを分けるだろうか。
 41:7 あなたはもりでその皮を、やすでその頭を十分に突くことができるか。
 41:8 その上にあなたの手を置いてみよ。その戦いを思い出して、二度と手を出すな。
 41:9 見よ。その望みは裏切られる。それを見ただけで投げ倒されるではないか。
 41:10 これを起こすほどの狂った者はいない。だから、だれがいったい、わたしの前に立つことができるか。
 41:11 だれがわたしにささげたのか、わたしが報いなければならないほどに。天の下にあるものはみな、わたしのものだ。
 41:12 わたしは彼のおしゃべりと、雄弁と、美辞麗句に黙っていることはできない。
 41:13 だれがその外套をはぎ取ることができるか。だれがその胸当ての折り目の間に、はいれるか。
 41:14 だれがその顔の戸をあけることができ

るか。その歯の回りは恐ろしい。
 41:15 その背は並んだ盾、封印したように堅く閉じている。
 41:16 一つ一つぴったりついて、風もその間を通らない。
 41:17 互いにくっつき合い、堅くついて離せない。
 41:18 そのくしゃみはいなずまを放ち、その目は暁のまぶたのようだ。
 41:19 その口からは、たいまつが燃え出し、火花を散らす。
 41:20 その鼻からは煙が出て、煮え立つかまや、燃える葦のようだ。
 41:21 その息は炭火をおこし、その口から炎が出る。
 41:22 その首には力が宿り、その前には恐れが踊る。
 41:23 その肉のひだはくっつき合い、その身にしっかりついて、動かない。
 41:24 その心臓は石のように堅く、臼の下石のように堅い。
 41:25 それができ上がると、力ある者もおじけづき、ぎょっとしてとまどう。
 41:26 それを剣で襲っても、ききめがなく、槍も投げ槍も矢じりもききめがない。
 41:27 それは鉄をわらのように、青銅を腐った木のようにみなす。
 41:28 矢もそれを逃げさせることができず、石投げの石も、それにはわらのようになる。
 41:29 こん棒をもわらのようにみなし、投げ槍のうなる音をあざ笑う。
 41:30 その下腹は鋭い土器のかけら、それは打穀機のように泥の上に身を伸ばす。
 41:31 それは深みをかまのように沸き立たせ、海を香油をかき混ぜるなべのようにする。

41:32 その通ったあとは輝き、深い淵は白髪のように思われる。
 41:33 地の上には、これと似たものはなく、恐れを知らないものとして造られた。
 41:34 それは、すべて高いものを見おろし、それは、すべての誇り高い獣の王である。

私たちは自然界のものを当たり前に行っていることによって、創造主の力を忘れてしまいがちです。ここに述べられている自然界の力の前に自分が小さな存在であることを認めて、謙遜になりましょう。そして主の力の前にひれ伏し、従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



42:1 ヨブは主に答えて言った。
42:2 あなたには、すべてができること、あなたは、どんな計画も成し遂げられることを、私は知りました。
42:3 知識もなくて、摂理をおおい隠した者は、だれでしょう。まことに、私は、自分で悟りえないことを告げました。自分でも知りえない不思議を。
42:4 どうか聞いてください。私が申し上げます。私はあなたにお尋ねします。私にお示してください。
42:5 私はあなたのうわさを耳で聞いていました。しかし、今、この目であなたを見ました。
42:6 それで私は自分をさげすみ、ちりと灰の中で悔い改めます。

とうとうヨブは、主の全能、人間の無知、そして高慢を心から認めることができました。「あなたを見ました」とは、理解することのできない偉大なお方を知ったということです。”私は神を知っている”という人は、その程度の神としか考えていないのですから、本当には神を知っていないのです。ですから”神の前に正しい”とか”神のみこころを知っている”などと言う場合はよくよく注意しなければなりません。

ヨブの友人たちは”知っている”というような人々でした。それでもヨブの悔い改めの様子を見て、神の全能の前にひれ伏すことができたのではないのでしょうか。

ヨブがそうであったように、主の主権を認め従うときには、不可能と思えた回復が始まるのです。自分の正しさや知識や経験を主張している限り、迷路にはまったままです。それよりも、主の主権の前にひれ伏して、回復をいただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



42:7 さて、主がこれらのことばをヨブに語られて後、主はテマン人エリファズに仰せられた。「わたしの怒りはあなたとあなたのふたりの友に向かって燃える。それは、あなたがたがわたしについて真実を語らず、わたしのしもべヨブのようではなかったからだ。

42:8 今、あなたがたは雄牛七頭、雄羊七頭を取って、わたしのしもべヨブのところに行き、あなたがたのために全焼のいけにえをささげよ。わたしのしもべヨブはあなたがたのために祈ろう。わたしは彼を受け入れるので、わたしはあなたがたの恥辱となることはない。あなたがたはわたしについて真実を語らず、わたしのしもべヨブのようではなかったが。」

42:9 テマン人エリファズと、シュアハ人バルダデと、ナアマ人ツォファルが行って、主の彼らに命じたようにすると、主はヨブの祈りを受け入れられた。

42:10 ヨブがその友人たちのために祈ったとき、主はヨブを元どおりにし、さらに主はヨブの所有物をすべて二倍に増された。

42:11 こうして彼のすべての兄弟、すべての姉妹、それに以前のすべての知人は、彼のところに来て、彼の家で彼とともに食事をした。そして彼をいたわり、主が彼の上にもたらしたすべてのわざわいについて、彼を慰めた。彼らはめいめい一ケシタと金の輪一つずつを彼に与えた。

42:12 主はヨブの前の半生よりあとの半生をもっと祝福された。それで彼は羊一万四千頭、らくだ六千頭、牛一千くびき、雌ろば一千頭を持つことになった。

42:13 また、息子七人、娘三人を持った。

14 彼はその第一の娘をエミマ、第二の娘をケツィア、第三の娘をケレン・ハブクと名づけた。

42:15 ヨブの娘たちほど美しい女はこの国のどこにもいなかった。彼らの父は、彼女たちにも、その兄弟たちの間に相続地を与えた。

42:16 この後ヨブは百四十年生き、自分の子と、その子の子たちを四代目まで見た。

42:17 こうしてヨブは老年を迎え、長寿を全うして死んだ。

主はヨブを本当の神観、本当の信仰に立たせるために試練をお与えになりました。そしてみごとにヨブは主を「知る」ことができました。そして主はご自身の目的を遂げて終わるだけではありません。ヨブを大いに祝福してくださったのです。

主は私たちに試練をお与えになります。それは私たちを愛するがゆえです。ですから、試練と祝福はかならずセットで用意されていると知りましょう。

ヨブは地上でまた10人の子どもたちが与えられ、また永遠の都である天にも10人の子どもたちがいるのです。私たちににとっては目に見えるところだけでは解決がつかないことがあります。悟りえない神の大きな御心を認めつつ、また永遠の天に希望を持ちつつ、人生を歩んでいきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



1日 土曜

ルカ



1:1 私たちの間ですでに確信されている出来事については、(V.2 挿入)多くの人が記事にまとめて書き上げようと、すでに試みておりますので、

1:2 初めからの目撃者で、みことばに仕える者となった人々が、私たちに伝えたそのとおりを、

1:3 私も、すべてのことを初めから綿密に調べておりますから、あなたのために、順序を立てて書いて差し上げるのがよいと思います。尊敬するテオピロ殿。

1:4 それによって、すでに教えを受けられた事がらが正確な事実であることを、よくわかっていたきたいと存じます。

1:5 ユダヤの王ヘロデの時に、アビヤの組の者がザカリヤという祭司がいた。彼の妻はアロンの子孫で、名をエリサベツといった。1:6 ふたりとも、神の御前に正しく、主のすべての戒めと定めを落度なく踏み行っていた。

1:7 エリサベツは不妊の女だったので、彼らには子がなく、ふたりとももう年をとっていた。

1:8 さて、ザカリヤは、自分の組が当番で、神の御前に祭司の務めをしていたが、

1:9 祭司職の習慣によって、くじを引いたところ、主の神殿にはいつて香をたくことになった。

1:10 彼が香をたく間、大ぜいの民はみな、外で祈っていた。

1:11 ところろが、主の使いが彼に現われて、香壇の右に立った。

1:12 これを見たザカリヤは不安を覚え、恐怖

に襲われたが、

1:13 御使いは彼に言った。「こわがることはない。ザカリヤ。あなたの願いが聞かれたのです。あなたの妻エリサベツは男の子を産みます。名をヨハネとつけなさい。

1:14 その子はあなたにとって喜びとなり楽しみとなり、多くの人もその誕生を喜びます。

1:15 彼は主の御前にすぐれた者となるからです。彼は、ぶどう酒も強い酒も飲まず、まだ母の胎内にあるときから聖霊に満たされ、

1:16 そしてイスラエルの多くの子らを、彼らの神である主に立ち返らせます。

1:17 彼こそ、エリヤの霊と力で主の前ぶれをし、父たちの心を子供たちに向けさせ、逆らう者を義人の心に立ち戻らせ、こうして、整えられた民を主のために用意するのです。」

ルカの言うように、福音書はどれも「綿密に調べ」られて書かれたものです。主のことばの確かさを信頼しましょう。またそのようにルカは、自分の説や考えを披露するのではなく、主のみわざとみこころを伝えることに終始しました。

自分の考えと主のみこころを峻別するのは難しいことではありますが、自分の評価を求めないで主の栄光だけを求めるなら、それができるようになると思われます。自分が尊重されるよりも、主の栄光を求めましよう。

ザカリヤの妻エリサベツは「不妊」の女でありましたが、主の御計画のために用いられました。主のみわざは人の及ばないところにありますので、困難や不可能を抱えている人には希望があります。

それも主のために用いられるという希望によって可能なのです。主のみわざを求める人には大き

な可能性があると思ひましよう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？



2日 日曜

ルカ



1:18 そこで、ザカリヤは御使いに言った。「私は何によってそれを知ることができましょうか。私ももう年寄りですし、妻も年をとっております。」

1:19 御使いは答えて言った。「私は神の御前に立つガブリエルです。あなたに話をし、この喜びのおとずれを伝えるように遣わされているのです。」

1:20 ですから、見なさい。これらのことが起こる日までは、あなたは、おしものが言えず話せなくなります。私のことばを信じなかったからです。私のことばは、その時が来れば実現します。」

1:21 人々はザカリヤを待っていたが、神殿であまり暇取るので不思議に思った。

1:22 やがて彼は出て来たが、人々に話をすることができなかった。それで、彼は神殿で幻を見たのだとわかった。ザカリヤは、彼らに合図を続けるだけで、おしのみままであった。

1:23 やがて、務めの期間が終わったので、彼は自分の家に帰った。

1:24 その後、妻エリサベツはみごもり、五か月の間引きこもって、こう言った。

1:25 「主は、人中で私の恥を取り除こうと心にかけて、今、私をこのようにしてくださいました。」

神様の常識を越えたみわざを納得するために、ザカリヤは「何によってそれを知ることが」できるのかと、証明を求めました。すなわち自分の判断に合うような説明があれば、受け入れるという態度です。それは神よりも自分の理性を優先させている姿です。主はこのことでザカリヤへの祝福を取りやめるということはなさいませんでした。その不信仰を悟

らせるために話せなくさせました。
理性は大切ですが、神様よりも優先することはありません。自分の理性や判断よりも主を優る方として信頼しましょう。また従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

